



病診連携通信

第 22 号

公益財団法人
湯浅報恩会
寿泉堂総合病院
平成30年2月

脳梗塞の実情と当院治療実績

脳梗塞はこれまでも運動麻痺など後遺症を伴い寝たきりとなる疾患の上位の病気であり、厚生労働省発表の平成28年度国民生活基礎調査（表1）で認知症に次ぐ病気であることが分かります。

（単位：％）

平成28年

要介護度	第1位		第2位		第3位	
総数	認知症	18.0	脳血管疾患（脳卒中）	16.6	高齢による衰弱	13.3
要支援者	関節疾患	17.2	高齢による衰弱	16.2	骨折・転倒	15.2
要支援1	関節疾患	20.0	高齢による衰弱	18.4	脳血管疾患（脳卒中）	11.5
要支援2	骨折・転倒	18.4	関節疾患	14.7	脳血管疾患（脳卒中）	14.6
要介護者	認知症	24.8	脳血管疾患（脳卒中）	18.4	高齢による衰弱	12.1
要介護1	認知症	24.8	高齢による衰弱	13.6	脳血管疾患（脳卒中）	11.9
要介護2	認知症	22.8	脳血管疾患（脳卒中）	17.9	高齢による衰弱	13.3
要介護3	認知症	30.3	脳血管疾患（脳卒中）	19.8	高齢による衰弱	12.8
要介護4	認知症	25.4	脳血管疾患（脳卒中）	23.1	骨折・転倒	12.0
要介護5	脳血管疾患（脳卒中）	30.8	認知症	20.4	骨折・転倒	10.2

注：熊本県を除いたものである。

表1 平成28年度生活国民基礎調査

このような状況の中で我が国では平成17年10月に血栓溶解療法の保険適応が認められ、何度かの見直しを経て、適応の幅も拡大して参りました。

表2は当院における血栓溶解療法施行例の推移になります。

	2014年	2015年	2016年	2017年	合計
t-PA症例数	6	16	10	18	50
発症からt-PA投与までの平均時間	2時間44分	3時間1分	2時間26分	3時間19分	2時間57分

※2017年は12月25日時点

表2 当院における血栓溶解療法施行例の推移

脳梗塞治療における最大のポイントは“発症から治療に至るまでの時間”であり、下記症状を認めた際に迷わず受診いただくことで、入院日数の短縮、機能予後（運動麻痺の改善の程度）の改善など、皆様の一助になれることを願っております。

シンシナティ病院前脳卒中スケール(CPSS)



1 顔面の弛緩

- 正常 顔面の両側が左右対称に動く
- 異常 顔面の動きが左右非対称



2 腕の動揺

- 正常 両側が同様に動き、水平を保持できる
- 異常 一方の腕があがらないか、保持できない



3 言語の異常

- 正常 不明瞭な発語はなく、正確に言葉を話す
- 異常 不明瞭な発語、単語を間違える、あるいは全くしゃべれない

* 3兆候のうち1つでも異常なら、脳卒中の可能性は72%

(脳卒中科：外間裕之)

寿泉堂総合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂総合病院 地域連携室 ☎024-927-0760（直通）または
☎024-932-6363（代表）にお願い致します。